

RYLA

第17回

全国 RYLA 研究会 広島会議

大会テーマ：「RYLAに求められるもの」

報告書

2025.5.10(土)▶11(日)



日程

5月10日(土)

本会議 13:00~17:00
懇親会 18:00~20:00

5月11日(日)

本会議 9:00~12:00

会場：安芸グランドホテル

〒739-0412広島県廿日市市宮島口西1-1-17
Tel:0829-56-0111 FAX:0829-56-3348



第17回全国RYLA研究会 広島会議を終えて

第17回全国RYLA研究会広島会議では、初日に約160名の方に参加していただき、開会点鐘の時に会場がほぼ満席になっているのを見て感激しました。

今回の大会テーマは「RYLAに求められるもの」でした。TRF管理委員三木明様の基調講演に始まり、シンポジウムとして6地区から報告をいただきました。いずれも素晴らしい内容でしたが、この中で2760地区からRYLA経験者であるライラリアンや、ローターアクターが企画した事例がありました。参加者と同世代の人が企画運営することで、参加者の満足度も上がってくるようです。参加対象者を誰にするかでやり方も変わってくると思います。

地区RYLAについての課題の一つとして、参加者を集めるのに苦労している地区が多いということがあります。ロータリアンの企業の社員を対象にしている地区では、参加者を集めるのに苦労している地区が多いようです。インターアクトを対象にしている場合は比較的集めやすく、大学型ローターアクトの会員が多い地区でも比較的参加者は集められるのではないかと思います。またローターアクターが運営にかかわることで、一般参加者とローターアクターとの交流から、一般参加者や、インターアクターがローターアクトに入りたいとの成果が出ている地区もあるので、ローターアクトの強化策の一つとしてのRYLAの役割も重要だと思います。内容についても各地区様々な取り組みがなされています。各地区の事例を整理して共有することができれば、かなり参考になると思います。その意味で今回、各地区の情報をRIJYEMに集めて、共有できることになったことは素晴らしいことです。ぜひ各地区の情報をRIJYEMに集めて活用できればと思います。

今回の研究会では、TRF管理委員の三木明様の基調講演をはじめ多くの方に講演していただきました。またRYJEMの皆様には、様々な形でサポートしていただきました。皆様のご協力に感謝します。大変ありがとうございました。

また、今回の研究会では参加していただいた皆様楽しんでいただこうと、大会前日のお好み焼きナイト、宮島観光、当日の懇親会、宮島ナイトクルーズなどで様々な企画を行いました。宮島と原爆ドームの二つの世界遺産と名勝錦帯橋という観光地での開催でしたが、皆様には楽しんでいただけたと思います。ご参加いただき大変ありがとうございました。



国際ロータリー第2710地区
ガバナー 上田 文雄

全国RYLA研究会を終えて

2025年5月10・11日に宮島口にある安芸グランドホテルで開催しました第17回全国RYLA研究会は、約160名のロータリアン・ローターアクトなどの参加をえて、有意義な会となりましたことを、皆様にお礼申し上げます。

およそ2年前に、RYLA顧問も務めておられる三木明ロータリー財団管理委員から、この研究会の主催を打診されました時は、果たしてどのような会をするべきかの目算もなく、ロータリー流に“はい、YES、喜んで”と受けざるをえませんでした。というのは、2023-24年度の私のガバナー年度で2710地区のRYLAを開催しました時にアドバイスをいただき、また講演も行っていただいたという経緯があったからです。しかしRYLAという行事が全国各地でどれほど認知され、それぞれの地区単位で皆さんに受け入れられているかについて自信がありませんでした。そこでRYLAの目的やその内容について再考し、皆さんに改めてRYLAの必要性和重要性を訴えることをめざそうと考えました。

2710地区のRYLAを実践するにあたっては、実行委員長として広島南RCの川村勝彦さんをお願いし、2人で手さぐりでRYLAを学びはじめました。RYLA（Rotary Youth Leadership Award）に最も熱心に取り組んでいると思われる2680地区のRYLAカウンセラーミーティング（1泊2日、小豆島の余島にあるキャンプ場で開催）に参加し、私の同期のガバナーである安行英文さんから故今井鎮雄さん、故深川純一さんの考えを学び、計画を練りました。会期はこれまでの1泊2日から2泊3日に変更し、プログラムは参加者の討論を中心とすること、参加者は大学生以上とすることなどをすすめました。

それを踏まえての全国RYLA研究会のご依頼でしたので、全国レベルでRYLAを普及するためのRYLAの目的や運営の見直しを語る研究会と位置づけることにしました。地区RYLAと同じく広島南RC川村勝彦さんに幹事として指揮をとってもらい、岩国RC、東広島21RCと広島南RCの3クラブからなる実行委員会を作り、全体の運営についてはRIJYEMの津留起夫さんのご指導とご協力を受けました。内容としては、RYLAの目的と守るべきルールなどを確立すると同時に、ローターアクトクラブとの協力を今後密にするべきという考えを示しました。

ロータリーの青少年奉仕プログラムはいくつかありますが、その中でRYLAは最も認知度の低いプログラムかもしれません。しかし、これからのロータリークラブの活動がより若い世代に委ねられようとしている今日、その人達にロータリー精神を伝えるプログラムとしてRYLAを普及させていかなければならないと思っています。単なる親睦行事に終わらせないために、RYLA経験者の継続的な活動がロータリーを支える一助となることを期待するものです。



第17回全国RYLA研究会広島会議
実行委員長 井内 康輝
(第2710地区バスターガバナー)

第17回全国RYLA研究会・広島会議プログラム

大会テーマ「RYLAに求められるもの」

1日目：5月10日（土曜日）

12：30	登録受付		
13：00	開会点鐘	第2710地区ガバナー	上田 文雄
	国歌「君が代」斉唱		
	ロータリーソング「奉仕の理想」合唱		
	開会挨拶	R I 理事（第2750地区PG）	水野 功
13：15	R I 会長ビデオメッセージ	R I 会長 ステファニー・A・アーチック	
13：30	基調講演	TRF管理委員（第2680地区PG）	三木 明
14：00	講演「広島の平和とロータリー」	実行委員会委員長（第2710地区PG）	井内 康輝
14：30	休憩		
14：40	シンポジウム「各地区のRYLAプログラムが目指すものは何か」		
		司会進行 第2710地区GE	土肥 慎二郎
	○6地区の代表者にRYLAについて現状や課題を発表していただきます。（各10分）		
	○総合討論（45分）		
16：25	休憩		
16：40	全国RYLA運営委員会及び地区RYLA委員長合同会議		議長 川村 勝彦
	○次年度開催地決定		
	○次年度開催地代表挨拶 及び PR		
17：00	記念撮影		
18：00	懇親会（全員）		
20：00	二次会		
	○ホテルラウンジ		
	○厳島神社鳥居めぐりナイト遊覧		

2日目：5月11日（日曜日）

9：00	開会		
9：10	危機管理委員会報告	RYLA運営委員会役員（危機管理担当）	黒田 建一
9：30	分科会		
	(A) RYLAのルールとファシリテーターのスキル		
	(B) 青少年に求められるリーダーシップとは		
	(C) RYLAとローターアクト		
10：40	分科会のテーマに対する総合討論		
		司会進行 第2680地区PG	安行 英文
		実行委員会委員長（第2710地区PG）	井内 康輝
11：40	講評	RIJYEM副理事長（第2660地区PG）	片山 勉
11：50	謝辞	実行委員会委員長（第2710地区PG）	井内 康輝
12：00	閉会点鐘	第2710地区ガバナー	上田 文雄

開会挨拶

第17回全国RYLA研究会広島会議に、全国各地から多くの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。まずは心より御礼申し上げます。

また、本会議の開催にあたり多大なるご尽力をいただきました上田ガバナー、そして実行委員長をはじめとする関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。

ロータリーには色々なプログラムがありますが、RYLAプログラムは私にとって一番好きなプログラムの一つです。ご案内にも記載させていただきましたが、RIの戦略的優先項目のひとつである「会員基盤の拡大」において、本プログラムは非常に有効な取り組みであると感じております。

私自身、2泊3日のRYLAプログラムを継続して実施しており、実は自分の長男や社員も参加させていただいております。参加者は皆、まるで別人のように大きな刺激を受けて帰ってきます。この経験が、未来のリーダーとしての成長につながることを実感しております。

現在、ロータリーの最大の課題は、会員の増強です。とりわけ若い世代や女性会員の増強は、日本のみならず世界中のロータリーが共通して取り組む課題です。豪州やニュージーランド、イギリスでは、ガバナンス変革の一環としてパイロットプログラムも実施されていますが、必ずしも順調とは言い難い面もあります。そのような中、RYLAプログラムやインターアクトなど、ロータリーファミリーをどう育てていくか、今後の鍵となります。

私が特に強調したいのは、卒業生ネットワークの重要性です。現在、世界でもっとも成功しているといわれる学友会は、「ロータリー米山記念奨学会」です。世界に10の学友会があり、日本国内にも33の学友会がありますが、ここまでネットワークが機能している例は他に類を見ません。私は、ピースセンターのエリアコーディネーターを6年間勤めていましたが、卒業生ネットワークは、まだ十分に活用されているとは言い難い状況です。

ぜひ、ライラリアンのOBのネットワークをさらに強化し、ロータリーファミリーの一員として、また将来のクラブ会員として関わっていただけるような仕組みづくりを期待しております。

今回の一日半にわたる研修が、皆様にとって有意義で多くの学びを得られる機会となることを願い、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



全国RYLA連絡会委員長
RI理事 水野 功
(第2750地区パストガバナー)

2024-25年度RI会長メッセージ



2024-25年度RI会長
ステファニー・A・アーチック

2024-25年度RI会長テーマ



メッセージ

ロータリーファミリーの皆様こんにちは。

ロータリーのリーダーと世界中のロータリーファミリーを代表して、皆様にご挨拶出来ることをうれしく感じております。

ロータリーでは互いにつながり帰属意識を感じられる場所が与えられ、親睦によって地域社会や世界をより良くするための可能性が引き出されます。

ロータリーの行動計画に従い、すべての会員がクラブへの帰属意識を感じられるよう支援をすることで、会員による新たな奉仕への意欲を引き出すことが出来ます。

末永い変化をもたらす力は、ロータリーファミリーから生まれます。

私たちが協力すれば分断された世界に癒しをもたらすことが出来ます。

会員であるなしを問わずロータリーがみんなにとってのインスピレーションとなれるよう力をお貸してください。

今年度は、ロータリーのマジックを広め、ロータリーが会員と地域社会の両方を支える組織として知られるようにしていきましょう。

[RI会メッセージ動画]

<https://qr.paps.jp/YFiru>



第17回全国RYLA研究会広島会議 開催にあたって

私は、RYLAに関わって約40年になります。今回で全国研究会は第17回を迎え、感慨深く思います。来年以降も継続開催される予定ですので、皆さまのご協力をお願いいたします。



全国RYLA連絡会副委員長
ロータリー財団管理委員 三木 明

今回のテーマは「RYLAに求められるもの」です。RYLAはリーダーシップを発揮したい、可能性を広げたい、世界を変えたいと願う若者のためのプログラムで、ロータリーの重要な使命である次世代リーダーの育成を目的としています。世界100以上の地域で実施されており、若者がリーダーシップスキルや奉仕の価値観を学び、生涯にわたる奉仕精神を育むことを目指しています。これにより、青少年奉仕活動を推進し、社会に貢献する若い担い手を育てることが狙いです。

従って、RYLAの大きな目的は「未来の担い手を育てる」ことです。ロータリーの五大奉仕の一つである青少年奉仕は、若者の成長を促し、互いに協力し合い強い絆を築く場を提供します。国際ロータリーによれば、年間約5万人の若者がRYLAを通じて育っています。RYLAは若者同士の交流にとどまらず、ロータリーとの生涯にわたるつながりを育む貴重な機会でもあります。

政治的背景では、トランプ政権になり「多様性」や「DEI（多様性・公平性・包摂性）」関連のプログラムが停止されましたが、ロータリーは言葉が使われなくなってもその精神が変わることはありません。誰もが受け入れられ大切にされることを目指し、帰属意識と相互尊敬の文化づくりに注力しています。全会員に対して「他者を尊重し、支援を示し、温かく迎え入れる環境を作る」ことが奨励されており、これらの活動はつながりを強め、すべての人の幸福と尊厳を推進する社会の基盤となっています。

また、「青少年の安全と福祉の保護」は最優先課題です。国際ロータリーの青少年保護方針に基づき、参加者の安全確保は会員や関係者の責務であり、不適切な行為や虐待から守るために最善を尽くさなくてはなりません。

ロータリーの理念の一つに「何物も求めず、ただ未来のために種を蒔く」という考えがあります。成果をすぐに求めず、未来に夢を託すことが青少年奉仕の根幹です。マルティン・ルターの言葉「たとえ明日が世界の終わりでも、今日もリンゴの木を植える」が示すように、RYLAで蒔かれた種は若者の心にいつか芽吹き、数年後に花開くかもしれません。未来を信じ、若い世代に夢を託すことが私たちの役割です。

大阪ロータリー黎明期の土屋大夢氏は100年以上前に「ロータリーの未来は国際協調に向かい、若者を育成すべき」と述べています。創設者ポール・ハリスも「ロータリーは過去の栄光ではなく未来

の活動に価値がある」と語っています。私たちは理想を持ち夢を追いながら、未来のために種を蒔き続ける存在なのです。

ロータリーは地域社会の発展のため七つの重点分野に取り組んでいます。平和推進、安全な水と衛生、疾病対策、母子の健康、教育促進、地域経済の成長、環境保護です。特にポリオ根絶は長年の最重要課題で、現在も世界的に取り組みを強化しています。

今回、全国研究会が広島で開催されたことは平和構築の歴史と連動しています。1914年に始まったロータリーの平和プログラムは1800人以上の平和活動家を育成しました。平和とは単なる戦争終結だけでなく、安全保障や教育・医療・インフラ整備を通じて持続可能で包括的な幸福な社会をつくることを意味します。ヨハン・ガルトゥングの理論にあるように、真の平和は暴力のない状態だけでなく、すべての人が幸福を感じる状況を作ることが必要です。

国際情勢ではアメリカ政府のWHO脱退発言もありましたが、ロータリーはポリオ根絶に固い決意を持って取り組み続けています。目標達成はもう一歩のところであり、地球上からポリオを根絶するため努力を続けています。

最後に、ロータリーは財団を通じ基金を拡充し、2029年まで活動期間を延長して目標達成に全力を尽くしていきます。

今後とも皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

第17回全国RYLA研究会 広島会議 「RYLAに求められるもの」 2025年5月10日 ロータリー財団管理委員 元国際ロータリー理事 全国RYLA連絡会副委員長 三木明	RYLAプログラムの目的： ・若者のリーダーシップスキルを磨き、地域に貢献している若者を表彰すること ・若者の心に生涯にわたる奉仕の精神を育み、ロータリーを通じた奉仕の機会へと導くこと ・若者のリーダーシップ育成を支援することにより、ロータリーの青少年奉仕を実践すること	RYLAを実施すると… 未来の担い手を育てる： 地域や世界の課題に取り組むために、多くの若いリーダーが求められています。ロータリーの五大奉仕部門の一つである青少年奉仕は、リーダーシップ育成を通じて若者の成長を促すことを重視しています。RYLAは、地元地域の有望な若者を育て、青少年奉仕を実践する機会となります。このような支援を通じて、参加者は自分の意見を形づくり、行動に移すためのスキルを磨くことができます。
DEI / 多様性、公平さ、インクルージョン に対してロータリーはどのような姿勢を取っていますか？ ロータリーでは、誰もが歓迎され、受け入れられ、大切にされていると感じられるような世界を築くというロータリーの価値観と使命に深く根ざした帰属意識と尊敬の念を育む文化の醸成に力を入れています。こうした原則は、強固な関係を築き、理解を深め、私たちが奉仕する地域社会に永くインパクトを与えるために欠かせないものです。	ロータリーは、差別や身体的、精神的、性的な虐待のない、青少年にとって安全かつ前向きな環境を育むことに努めています。 	たとえ明日が世界の 最後の日であっても、 私は今日も林檎の木を 植える マルティン・ルター 
私たちは、 平和を推進し、 安全な水と衛生のために活動し、 疾病と闘い、 母子の健康を守り、 基本的教育と識字率向上を進め、 地域経済を成長させ、 環境を保護し、 ポリオ根絶に力を尽くしています。	平和の実現には、 cooperation(協力)、 equity(公平、公正)、 harmony(調和)、 empathy(共感)が欠かせない	ポリオ根絶を歴史の1ページに ポリオ根絶活動の情報に 関心をお持ちください そして行動してください 

【基調講演スライド】

<https://qr.paps.jp/LkaAh>



講演「広島の平和とロータリー」

本日は、広島にお越しいただいた皆様に、せっかくの機会として、広島と平和に関するお話をさせていただきます。

冒頭では「被爆の実相」の映像（実際の映像は9ページ記載のURL・二次元コードをご参照ください）をご覧いただきましたが、1945年8月6日、広島に投下された原子爆弾により、当時の人口35万人のうち約13万人が即死し、後に亡くなられた方々も含めると、40万人以上が犠牲となりました。たった一発の爆弾で多くの命が奪われたという現実、言葉では表しきれない悲劇です。しかし、そのような惨状から広島は復興を遂げました。被爆からわずか3日で路面電車が再開し、倒壊した学校では青空教室が開かれ、学びが再開されました。市民一人ひとりの努力と情熱によって、今では緑あふれる美しい都市となり、約120万人が暮らしています。

2023年に開催されたG7広島サミットでは、各国の首脳が原爆資料館を訪問し、平和へのメッセージを残しました。私たちロータリークラブでは、それらのメッセージを日本語・英語で刻んだ記念碑を広島市の比治山公園に建立しました。市はこの公園を、平和公園に次ぐ「第二の平和の象徴」と位置づけることに精力的です。中でも印象的だったのが、イギリスのスナク首相のメッセージです。「シェイクスピアは悲しみを言葉にせよと説いたが、原爆の閃光に照らされ、言葉は通じない。広島と長崎の人々の恐怖と苦しみはどんな言葉を用いても言い表すことはできない。私たちが心を込めて言えるのは、“繰り返さない”ということだけだ」と残してくれました。

私はロータリーの基本理念である「奉仕を通じた平和の実現」に強く共感しており、2023-24年度にはRI会長ゴードン・R・マッキナリー氏のテーマ「Create Hope in the World（世界に希望を）」を受けて、“平和の種をまこう！！～ロータリアンにできること～”を地区の信条とし、特に青少年への平和教育に注力しました。

広島では、小・中・高校を通じて平和教育が行われており、毎年8月6日に向けて小学生約1万人が平和に関する作文を書きます。その中から選ばれた2名が、平和記念式典で「子ども平和宣言」を発表します。また、県や市の支援で選ばれた高校生たちは、各種の国際会議やフォーラムに参加し、世界に被爆の実相を伝えています。

さらに、2005年から「青少年国際平和未来会議」という取り組みを続けています。国内外の高校生や大学生が広島に集まり、合宿形式で平和について議論し、共同で平和宣言を作成するものです。コロナ禍ではオンラインでの開催となりましたが、その成果はYouTubeを通じて広く発信しました。

こうした取り組みは、ロータリアンとしてだけでなく、一人の広島市民としても誇りに思っております。次世代を担う若者が、自分たちの生活と未来を守るため、希望を持って行動できる社会を築いていくことが、私たちの使命だと信じています。



第17回全国RYLA研究会広島会議
実行委員長 井内 康輝
(第2710地区バストガバナー)

まずはこちらの動画をご覧ください

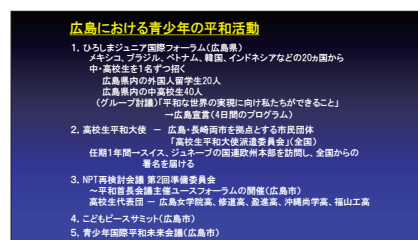
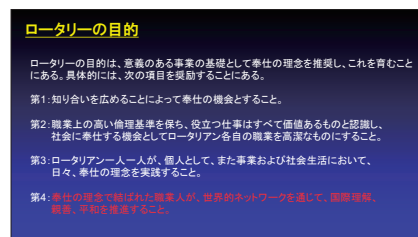
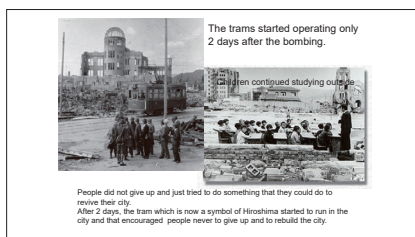
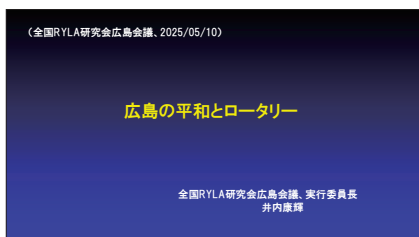
[被爆の実相動画]

<https://qr.paps.jp/j0JOu>



[折り鶴プロジェクト2020動画]

<https://x.gd/xgNTw>



[講演「広島平和とロータリー」スライド]

<https://qr.paps.jp/oePto>



シンポジウム報告

「各地区のRYLAプログラムが目指すものは何か」

司会進行 第2710地区ガバナーエレクト
土肥 慎二郎

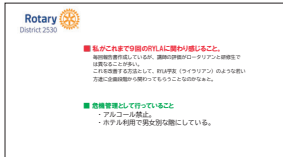
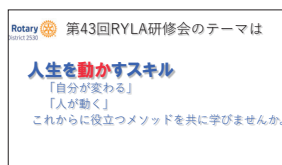
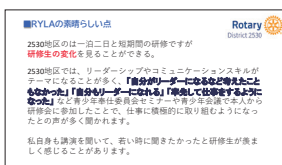


「2530地区のRYLA」

報告者：第2530地区 菅野 拓司 氏



2530地区（福島）では、毎年リーダーシップやコミュニケーション能力を向上させる研修に取り組んでおられますが、研修生の募集、RYLA学友へのフォローといった、多くの地区が共通して抱えている課題について触れていただきました。



「2530地区の RYLA」スライド

<https://qr.paps.jp/cPBC6>

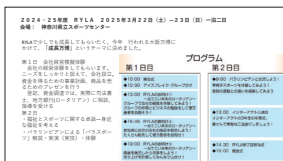
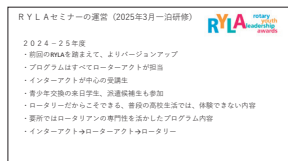
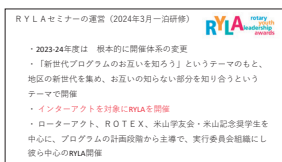
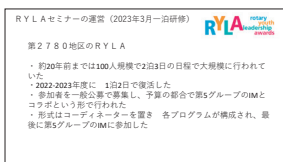


「2780地区の2024-25年度RYLA」

報告者：第2780地区 浅場 智彦 氏 谷後 優太 氏



2780地区（神奈川）では、ローターアクトが中心となって、インターアクトや青少年交換学生といった高校生を対象としたRYLA研修に取り組んでおられました。



「2780地区の2024-25年度 RYLA」スライド

<https://qr.paps.jp/AmxJ5>



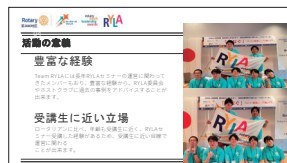
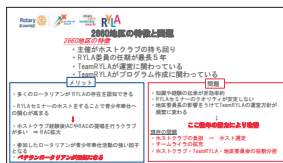
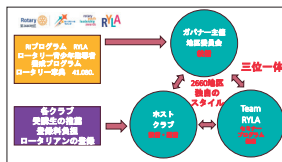
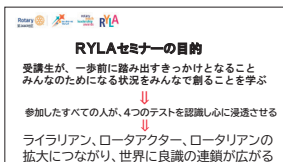
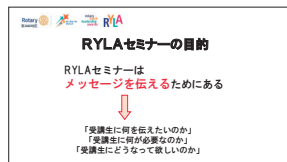
「2660地区の24-25年度RYLA」



報告者：第2660地区 土方 慶之 氏 甲斐 翼 氏

2660地区（大阪北部）では、地区委員会とホストRC、そしてRYLA学友からなるTeam RYLAとが強力なタッグを組んで有意義な研修を企画・実施されていました。

カウンセラーシステムというのも大変参考になりました。



「2660地区の24-25年度RYLA」スライド

<https://qr.paps.jp/q1qP>

【動画】

<https://qr.paps.jp/mcLqg>



スライド



動画

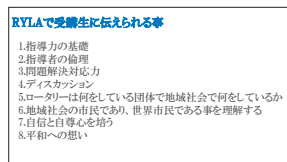
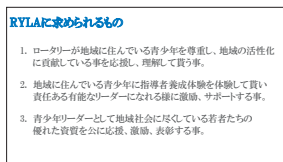
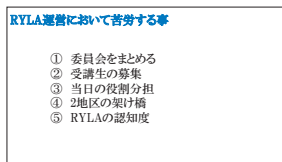
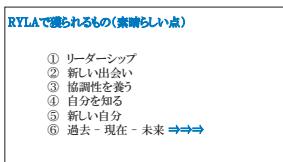
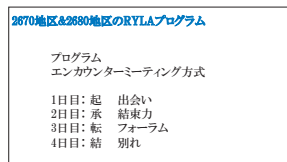
「2680地区のRYLA」



報告者：第2680地区 北川 博崇 氏

2670地区（四国4県）と2680地区（兵庫県）では3泊4日の日程で、高レベルの講義に加えて、キャビンタイム、思索の時間、バズセッション、フォーラム、そしてカウンスルファイヤーとRYLAの本質を追求する内容で、毎年同様のプログラムで研修を実施しておられました。

地域RYLA小委員会委員長（川西RC）



「2680地区の RYLA」スライド

<https://qr.paps.jp/4304m>

【動画】

<https://qr.paps.jp/7MQN5>



スライド



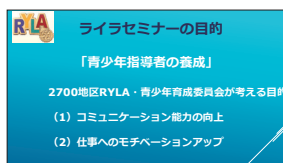
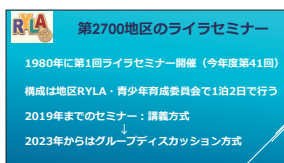
動画

「2700地区のRYLA」



報告者：第2700地区 中松 大和 氏

2700地区（福岡・長崎・佐賀）では、講義中心のリーダーシップ養成から、青少年自らがコミュニケーション能力を磨き、仕事に対するモチベーションの向上につながるような研修に努めておられます。



「2700地区のRYLA」スライド

<https://qr.paps.jp/ycK0F>



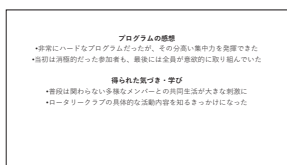
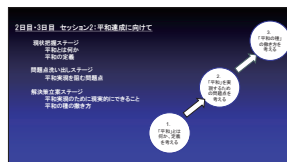
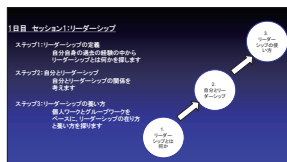
「RYLAプログラムに参加して」

報告者：第2710地区 蒔田 龍之介 氏



2710地区（広島・山口）のRYLA学友、広島大学の蒔田龍之介様が、発表の中でこのように言われました。「RYLAに参加して、あらためて自分は多くの人ののおかげで生きているということ学びました。特に、自分の両親には感謝したいと思います」と。

RYLA研修はやはり素晴らしいと感じたところです。



「RYLA プログラムに参加して」
スライド

<https://qr.paps.jp/CVFNh>



「新しいRYLA」

2760地区（愛知）より、新しい取り組みとしてRYLAセミナー1、オンラインで自己紹介やロータリーの理念への理解を深めたのち、数週後に対面式でRYLAセミナー2を行う、というユニークな方法の報告がありました。そしてそのプログラムはRYLA学友が中心となって企画しているそうです。今後のRYLAの新しい形となるかもしれません。



第2760地区RYLA学友会
小島 夏帆 氏

「まとめ」

このシンポジウムの中で、各地区のRYLAへの取り組みや考え方が違うことを知り、私にとっても参加いただいた皆様にとっても大変有意義な時間となったことと思います。多くのご意見をいただいた皆様、誠にありがとうございました。ご協力に心より感謝申し上げます。



最後に、2680地区パストガバナー 故 深川純一様の「RYLAの種」をご紹介します。

RYLAの種

RYLAの種は、RYLAから地域社会へ戻っていった若者たちの心に
すぐに芽生えるかもしれない
あるいは1年後になるかもしれない
あるいは10年後かもしれない
また、あるいは、永遠に芽生えないかもしれない
しかし、いつかは芽生えることを信じて、ひたすら種をまく
種をまき続ける、そして未来に託す
これがロータリーの思想でもあり、RYLAの思想でもある

全国RYLA運営委員会 及び地区RYLA委員長合同会議



全国RYLA運営委員会
委員長 川村 勝彦

○1号議案（報告事項として）

全国RYLA連絡会委員会組織について

組織の目的と役割についてRYLA運営委員会役員、危機管理担当の黒田健一様よりご説明とお話をいただきました。

○2号議案（決議事項として）

- ・次年度「第18回全国RYLA研究会」開催地の決定を行いました。

○1号議案

黒田 健一 氏による報告事項



RYLA運営委員会役員
危機管理担当 黒田 健一

RYLA研究会の運営体制について、これまでの経緯と現状をご報告いたします。第8回までは、全国研究会の開催地が東京周辺に固定されていましたが、第9回からは持ち回り方式に変更されました。この運営方法の変更により、開催ノウハウや運営方針が十分に引き継がれず、継続性の確保が課題となりました。

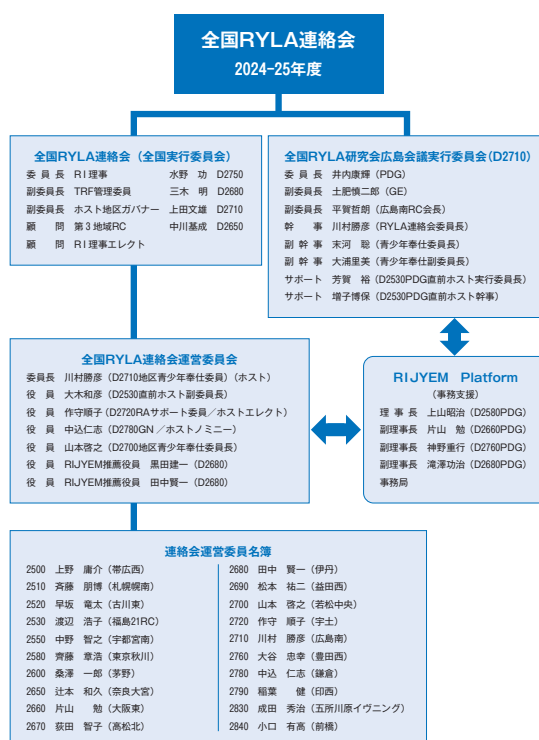
このような背景を受けて、各地区から1名ずつ代表を出し、連携や情報共有を目的とした「全国連絡会」の設立が進められました。正式な組織体制が整うまでに約5年を要し、第14回大会から本格的な運用が始まっています。

現在は、各地区から選出された運営委員により構成され、年1回の運営委員会にて次年度開催地区の決定など、重要事項の協議を行っています。規則は一部のみが明文化されており、多くは従来の合意形成と慣習に基づいて運営されています。なお、当該年度の開催地が委員長を、前年度および次年度の開催地が監査役を務める体制となっています。

全国連絡会は、単なる連絡調整機能にとどまらず、各地区間の横のつながりを強化し、RYLA研究会全体の質の向上と継続的な発展に寄与することを目的としています。今後もより良い運営体制の構築と、持続可能な活動の基盤づくりを進めてまいります。

全国連絡会は、単なる連絡調整機能にとどまらず、各地区間の横のつながりを強化し、RYLA研究会全体の質の向上と継続的な発展に寄与することを目的としています。今後もより良い運営体制の構築と、持続可能な活動の基盤づくりを進めてまいります。

2024-25年度 全国RYLA連絡会委員会組織図



○2号議案

次年度「第18回全国RYLA研究会」開催地決定



第18回全国RYLA研究会
大分会議
実行委員長 前田 眞実 氏

第2720地区が2026年4月11日（土）大分市において開催を立候補されており、満場一致で大分会議の開催が決定いたしました。

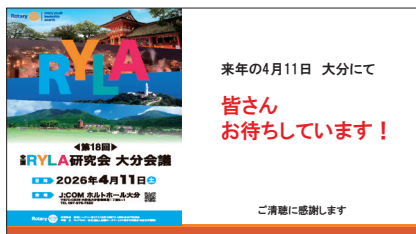
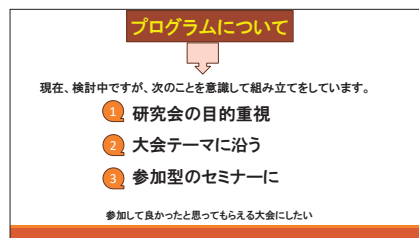
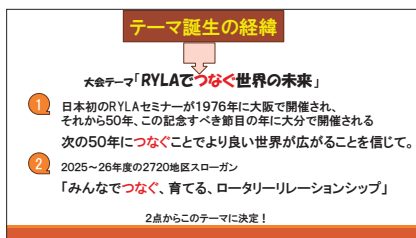
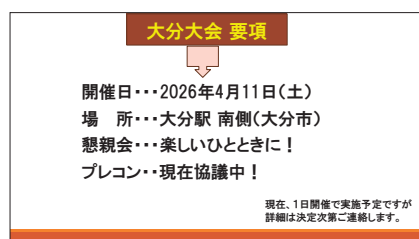
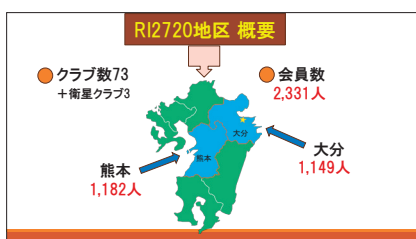
大分会議実行委員長：前田 眞実 氏のご挨拶及びPR

第2720地区（大分・熊本）では、次年度のRYLA大分大会を2026年4月11日（土）に大分駅南側の会場で開催予定です。現時点では一日開催を想定しており、懇親会も計画されています。プレコンについては現在協議中ですが、実施に向け前向きに検討中です。

テーマは「RYLAでつなぐ世界の未来」、サブタイトルは「未来、自らの可能性が明日を開く」とし、実行委員会内で多数の候補から選定されました。来年は1976年の日本初のRYLA開催から50周年にあたる節目の年であり、地区スローガン「みんなでつなぐ、育てる、ロータリーリレーションシップ」との連動も意識したテーマ設定です。

現在プログラムは検討中ですが、参加型・対話型を重視し、受け身の講義型からの脱却を目指しています。RYLA本来の目的に立ち返り、実りある学びを提供できるよう、今月末に実行委員会を開催して具体化を進めてまいります。

また、大分の魅力として、源泉数・湧出量ともに日本一の温泉や、フグをはじめとする豊かな食文化も紹介予定です。地元の魅力を活かし、参加者の記憶に残る大会を実現していきます。



【「第18回全国RYLA研究会大分会議について」スライド】

<https://qr.paps.jp/JpOR>



第18回全国RYLA研究会 大分会議 開催決定

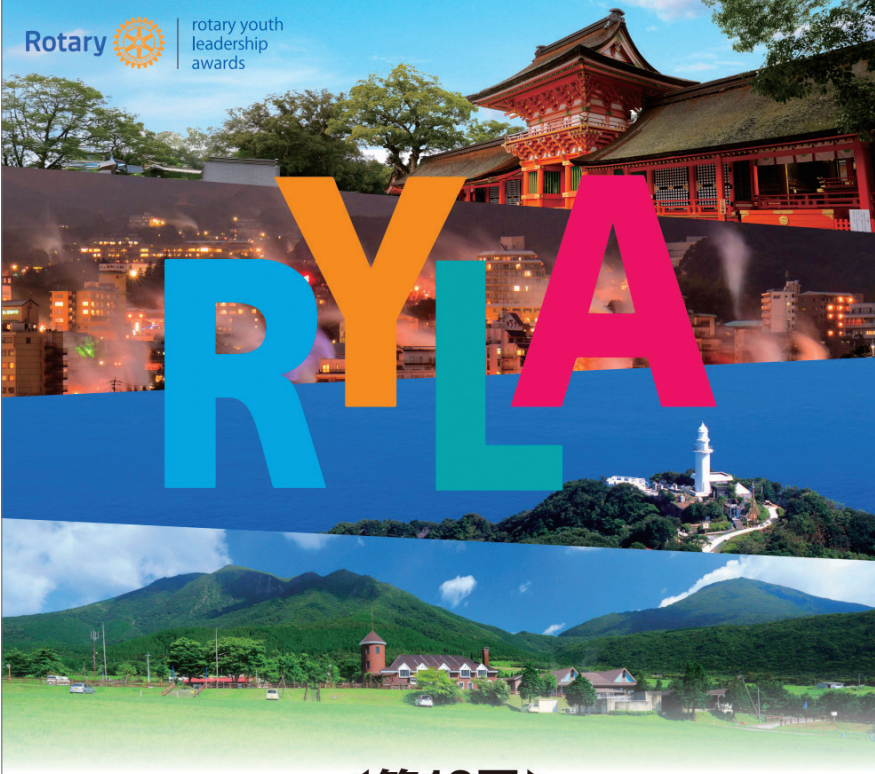
第18回全国RYLA研究会 大分会議が2026年4月11日(土)大分市にて開催予定です。

内容につきましては、皆様が充実できるものにしてお迎えしたいと考えています。

開催時間や具体的なプログラムについては、現在、2720地区実行委員会にて検討しておりますので、詳細が決まり次第、ご案内させていただきます。

多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

RI 第2720地区 全国RYLA研究会 大分会議 実行委員会



Rotary | rotary youth leadership awards

RYLA

◀第18回▶
全国RYLA研究会 大分会議

日時 ▶ **2026年4月11日(土)**

会場 ▶ **J:COM ホルトホール大分**
〒870-0839 大分県大分市金池南1丁目5-1
TEL 097-576-7555

QRコード

Rotary | ■事務局 国際ロータリー第2720地区全国RYLA研究会実行委員会
■協力 RIJYEM(一般社団法人国際ロータリー日本青少年交換多地区合同機構)

危機管理委員会報告

ロータリー青少年奉仕における活動と危機管理の重要性



RYLA運営委員会役員
危機管理担当 黒田 健一

本日は、青少年プログラムを実施する際に不可欠な「危機管理体制の強化」についてお話しいたします。まず強調したいのは、「自分たちのクラブに限っては起きない」という油断こそが、重大なトラブルの引き金になるということです。

昨年、岐阜ではクラブ会館を巡る25億円規模の詐欺事件が発生し、大きく報道されました。これに限らず、事務局員による横領や会員間の金銭トラブルなど、組織の信頼を揺るがす事例が後を絶ちません。特に金銭の授受に関しては、クラブ内の問題にとどまらず、社会的信用を損なう深刻な案件となり得ます。

こうした背景を受け、ロータリーにおいても危機管理の強化は必須となっています。とりわけ青少年プログラムでは、参加者の年齢や立場をふまえた配慮が求められます。なお、「青少年」の定義は厳密には決まっていますが、一般的には30歳未満が目安とされています。

国際ロータリー（RI）も、青少年保護に関する方針の強化を進めており、2020年以降、関連ガイドラインの見直しが行われています。たとえば、未成年者が参加する際には保護者の同意取得が必須であり、指導者には所定の研修受講が求められることもあります。こうした規定は「RI章典 060-03」に明記されています。

また、各クラブにおいては危機管理を担当する委員会の設置が強く推奨されています。未設置のクラブは、将来のリスクに備えるためにも早急な対応が望まれます。

今日では、社会全体でハラスメントや不正に対する意識が高まり、被害者が声を上げやすい環境が整いつつあります。かつては黙認されていた事案も、迅速な報告と対応が不可欠となっています。実際、過去にある地区で発生したトラブルも、誠実に対応したことでRIから高く評価され、問題が円満に収束した事例もあります。

重要なのは、問題が発生したときに「正直に、誠実に、迅速に」対応する姿勢です。対応を誤れば、信頼を大きく損なうだけでなく、被害が拡大しかねません。

以上の点を踏まえ、各クラブにおかれましても改めて危機管理体制を見直していただき、安全で信頼される活動の推進に努めていただきますようお願い申し上げます。ご清聴ありがとうございました。

RYLA 青少年奉仕と危機管理 第17回全国RYLA研究会広島会議 2025年5月11日（日） 於 安芸グランドホテル RIJYM研修部門委員 RID2680地区危機管理委員長 同 青少年奉仕委員長 西宮イブニングRC 黒田 建	青少年活動において注意すべきこと 1. 危機管理 (1) 青少年活動に対するRIの考え方を理解する (2) 特にハラスメントの問題については章典を知っておく必要がある (3) 章典はマイロータリーから入れば入手可能 (4) クラブに危機管理委員会を設ける	2. 青少年保護の手引 ・青少年保護の手引は章典をまとめている ・但し、章典は時々改正されていることに注意 ・損害保険の重要性 ・RIJYMを中心としてロータリー全体での保険の重要性は理解されている ・未成年の国外旅行は青少年交換のルールによる
危機管理の部 第1. なぜ危機管理か？ ・危機を問われる問題はいつも起きている ・ロータリーには無いというのは幻想である ・皆そのことを知りながら長い間黙認してきた ・しかし「された者」の沈黙の時代は終わった ・「した者」は「された者」への適切な対応を迫られている ・「された者」と「した者」との認識の違いを埋めること、そして認識の違いを生じさせないことが危機管理の大きな課題	2. 「ロータリアン行動規範」の意義 (1) 行動規範はロータリアンの公私に亘る行動に適用されるものであって、ロータリー活動に限定されない (2) 刑事事件における行為者の責任判断基準は一般人であるが、ロータリーにおけるロータリアンの行動の評価基準はロータリアンの行動規範による (3) 規範（code）の規範力の強さと、違反の場合の意味を理解する必要がある	6. 危機管理問題に対応するに当たって ・「多分起こらないだろう」、「滅多には起こらないだろう」という態度は避ける ・「想定外」は「想定しない」、「想定する必要がない」から生じる ・危機管理問題が生じないのは単にその発生を知らないだけかもしれない ・生じた問題の解決済みは、そう思っているだけかもしれない ・危機状態が長期継続する場合には状況に応じた迅速かつ柔軟な対応が必要となる問題となるのは判断基準をどの様に考えるかである

[青少年奉仕と危機管理スライド]
<https://qr.paps.jp/j8aJd>



分科会報告

全国から集まったロータリアンおよび青少年活動関係者による3つの分科会（A・B・C）では、それぞれの視点からRYLAの意義と実践、青少年のリーダーシップ育成、そして他プログラムとの連携強化について、活発な意見交換が行われました。各分科会では、地域の特性や参加者の経験を踏まえた具体的な事例と課題が共有され、今後の活動に向けたヒントと展望が数多く得られる貴重な場となりました。



〈3つの視点〉

1. RYLAプログラムにおけるルールとそれを支えるファシリテーターのスキル
2. RYLAの目的である涵養される青少年のリーダーシップとは何か
3. RYLAとローターアクトがより密接に協力してお互いの発展をはかることはできないか

分科会（A）

RYLAのルールとファシリテーターのスキル

ファシリテーター：安行 英文 氏（第2680地区）

井内 康輝 氏（第2710地区）

分科会Aでは、RYLAプログラムの運営体制や人材配置、オンライン開催の可能性、リーダーシップ育成の方法について活発に議論が交わされました。役割分担の明確化や参加者への個別対応の重要性、参加者の自発的な学びを促す関わり方など、実践に即した意見が多く寄せられました。また、ロータリアン自身も学びの当事者であるとの認識が共有され、RYLAが若者と地域社会に与える影響の大きさが改めて確認されました。今後も継続的な対話と共有の場が求められます。



分科会 (B)

青少年に求められるリーダーシップとは

ファシリテーター：荻田 智子 氏（第2670地区）

北野 尚人 氏（第2710地区）

分科会Bでは、「青少年にとってのリーダーシップとは何か」を主題に、参加者はまず個人作業を行い、その後6班に分かれてグループディスカッションを実施しました。一般的なリーダー像と、青少年特有の課題や育成の方向性について多様な視点から意見が交わされ、リーダーシップの芽を育む具体的な手法や支援策について活発な意見交換が行われました。今回の対話を通して、実践的で柔軟なプログラム設計の重要性が再確認され、各地区での取組への応用が期待されます。



分科会 (C)

RYLAとローターアクト

ファシリテーター：福谷 総大 氏（第2710地区RAC代表）

中垣 迅人 氏（第2680地区神戸RAC）

分科会Cでは、「RYLAとローターアクトの連携」をテーマに、現状の課題や今後の連携のあり方について議論が行われました。RYLA修了後の継続的な関わりをどう支えるか、両プログラムの相互理解をどう深めるかが共通課題として挙げられました。中間支援組織や合同イベント、事前学習の導入など、すでに取り組まれている事例が共有され、若者の活動継続を支える柔軟な支援体制の必要性が確認されました。今後も各地区の特性に応じた実践が求められます。



分科会まとめ

分科会を通じて得られた数多くの意見や示唆により、RYLAが果たすべき本質的な役割、そしてこれからの時代に求められる発展の方向性が、より一層明確になりました。それぞれの分科会での実践的かつ多様な視点からの議論は、全国各地で展開されるRYLAの取り組みに対して新たな気づきと示唆をもたらし、今後の活動に向けた大きな一歩となりました。本会議全体を俯瞰しても、RYLAは全国の取り組みや地域間の知見を結びつけ、志を同じくする仲間を導く“灯台”としての確かな存在感を示しました。卒業生ネットワークのさらなる拡充や、地域の特色を活かした柔軟かつ持続可能な運営体制の構築、さらには既存のプログラムを時代の変化に即して見直す「再定義」の視点など、数多くの重要課題に対して、前向きで実践的な視座を共有する貴重な機会となりました。

しかしながら、これらの成果を単なる一過性の成果に終わらせることなく、真に次世代を担うリーダーを育て上げていくためには、私たち一人ひとりが今後も学びを止めることなく、不断の工夫と挑戦を積み重ねていくことが不可欠です。RYLAプログラムには、いまだ多くの可能性と伸びしろが残されており、その理想像を具現化していくためには、現場で活動されている方々の実践知と情熱、そして柔軟な発想が何よりも重要な原動力となります。

引き続き、関係するすべての皆さまにおかれましては、それぞれの地域や立場においてご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後のさらなる連携と発展に向けた積極的な関与を心より期待しております。



第17回全国RYLA研究会広島会議 総括講評

平和の礎・広島において開催された第17回全国RYLA研究会広島会議は、「RYLAに求められるもの」を大会テーマに掲げ、全国各地より志を共にするロータリアン、ローターアクト、青少年育成関係者が一堂に会する実り豊かな二日間となりました。

リーダーシップ育成と青少年奉仕というロータリーの本質に立ち返りつつ、多様な視点を交えながら新たな一步を刻んだ本会議の意義は誠に大きく、ここにその全体を総括的に講評いたします。

初日の開会においては、RI理事水野功様より、RYLAプログラムがロータリーの戦略的優先事項である「会員基盤の拡大」に資する極めて有効な手段であるとの指摘があり、ご家族や社員も参加させているという実体験を交えた言葉は、RYLAの力を雄弁に物語っておりました。

続く基調講演では、TRF管理委員三木明様より、青少年育成は未来への投資であり、「何物も求めず、ただ未来のために種を蒔く」というロータリーの理念が説かれました。その理念は、政治的背景の変化に揺らぐことのないDEI（多様性・公平性・包摂性）への姿勢とともに、青少年の安全確保という責務と表裏一体のものとして力強く再確認されました。

また、実行委員長井内康輝氏による講演「広島の平和とロータリー」では、被爆の惨禍から立ち上がった広島の歴史と市民の希望への歩みが語られ、ロータリーの基本理念「奉仕を通じた平和の実現」と深く響き合う内容となりました。G7サミットの記念碑建立をはじめとする具体的な平和活動の紹介は、参加者の心に強い印象を残しました。

シンポジウムにおいては、各地区の取り組みが多様性と柔軟性をもって紹介されました。2530地区のフォローアップ体制の課題、2780地区における高校生への接点創出、2660地区のカウンセラー制度、2680・2670地区のプログラム深化、2760地区のハイブリッド開催形式など、それぞれの創意と工夫は多くの学びを提供しました。また、RYLA学友の言葉からは、内面的変容や感謝の芽生えが、プログラムの本質的価値であることが改めて伝わってきました。

2日目の分科会では、運営体制やファシリテーターの養成、青少年特有のリーダーシップの定義と育成支援、ローターアクトとの連携の模索など、具体的かつ実践的な議論が交わされました。中でも、参加型・対話型を志向する姿勢は、今後のRYLAの方向性を示唆するものとなり、各地区での応用と継続が期待されます。

さらに、危機管理委員会報告においては、社会的信頼を維持するために不可欠な体制整備と意識共有の必要性が説かれ、安全と倫理の両立という視点からRYLA活動の質を高める提言がなされました。青少年の安全は何よりも優先されるべきであり、その姿勢が全プログラムに反映されることが望まれます。

以上、多角的かつ総合的な議論と交流を経て開催された本会議は、全国のRYLAが共に歩む“灯台”としての役割を果たしました。卒業生ネットワークの拡充、地域特性に応じた柔軟な運営、プログラムの再定義、そして奉仕の理念を未来へと繋げる覚悟が、随所に感じられる場でありました。

しかしながら、若者との対話を深め、次世代のリーダーを真に育成するには、私たち一人ひとりの不断の工夫と努力が求められます。RYLAプログラムには、なお改善と発展の余地があり、その理想の実現には現場の叡智と情熱が不可欠です。関係各位におかれましては、今後も惜しみないご尽力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



RIJYEM副理事長
片山 勉
(第2660地区バストガバナー)

当日の記録：フォトギャラリー

・ 1 日目会議



・ 2 日目会議



当日の記録：フォトギャラリー

・分科会



・懇親会／プレコン



参加者名簿

(地区別・順不同・敬称略)

No	地 区	氏 名	役 職 名
1	2750	水野 功	RI理事
2	2680	三木 明	R財団管理委員・地区RYLA顧問
3	2520	早坂 竜太	地区青少年奉仕委員長
4	2520	小野 智哉	地区RA・RYLA委員長
5	2530	菅野 拓司	RYLA委員長
6	2530	芳賀 裕	バストガバナー
7	2530	大木 和彦	前青少年奉仕委員長
8	2530	渡辺 浩子	ローターアクト委員長
9	2530	増子 博保	青少年奉仕委員長
10	2530	金田 昇	ガバナーノミニー
11	2540	加賀 美奈	青少年奉仕委員長
12	2580	平井 憲太郎	地区学友フェローズ副委員長
13	2580	大澤 栄一	地区青少年奉仕委員長
14	2580	小林 康德	次年度地区RYLA委員
15	2590	大塚 正一	ガバナーエレクト
16	2590	横山 芳春	RYLA委員長
17	2630	矢野 哲也	地区委員長
18	2650	石原 久歳	地区学友委員長
19	2660	土方 慶之	地区RYLA委員長
20	2660	山中 政彦	地区RYLA副委員長
21	2660	中島 一	地区RYLA副委員長
22	2660	時田 崇	地区RYLA副委員長
23	2660	高濱 昌次	地区RYLA委員
24	2660	延原 健二	地区危機管理委員長
25	2660	岩元 大輔	25-26年度地区ライラ実行委員長
26	2660	松林 俊也	25-26年度クラブ青少年奉仕委員長
27	2660	塩谷 英俊	24-25年度クラブ青少年奉仕委員長
28	2660	高山 孝一	24-25・25-26年度地区ライラ委員会委員
29	2660	筈本 則康	25-26年度クラブ行動計画推進委員長
30	2660	辻 祥光	25-26年度クラブ会長
31	2660	上野 博史	25-26年度クラブ会長エレクト
32	2660	眞部 尚英	24-25年度クラブ会員増強委員長
33	2660	片山 勉	バストガバナー
34	2660	尼田 勝彦	クラブ会長
35	2670	織田 英正	ガバナーエレクト
36	2670	荻田 智子	青少年奉仕委員長
37	2670	米山 徹太	ライラ委員長
38	2670	長野 佑紀	RYLA学友幹事
39	2670	上甲 泰	ライラ委員
40	2680	城 守	ガバナーエレクト
41	2680	安行 英文	直前ガバナー

No	地 区	氏 名	役 職 名
42	2680	北川 博崇	地区RYLA委員長
43	2680	藤井 秀樹	地区RYLA副委員長
44	2680	酒井 龍太郎	地区RYLA副委員長
45	2680	安平 和彦	バストガバナー・地区RYLA顧問
46	2680	黒田 建一	地区青少年奉仕委員長・危機管理委員長
47	2680	丸尾 研一	バストガバナー・地区RYLA顧問
48	2680	小林 雅美	地区RYLA委員
49	2680	滝澤 功治	バストガバナー・地区RYLA顧問
50	2680	矢坂 誠徳	ガバナー
51	2680	吉井 久美子	地区RYLA委員
52	2690	榊原 敬	ガバナー
53	2690	松本 祐二	全国RYLA連絡委員
54	2700	野崎 千尋	ガバナー
55	2700	山本 啓之	青少年奉仕委員長
56	2700	安増 惇夫	バストガバナー
57	2700	中松 大和	RYLA委員長
58	2700	竹田 存孝	RYLA副委員長
59	2700	牛島 純一	RYLA委員
60	2700	原 奈緒美	RYLA委員
61	2700	川崎 和子	RYLA委員
62	2700	河野 活	RYLA委員
63	2700	濱野 良彦	ガバナーエレクト
64	2710	増井 洋平	クラブ青少年奉仕副委員長
65	2710	脇 和也	ガバナーノミニー
66	2710	上田 文雄	ガバナー
67	2710	伊藤 進吾	地区代表幹事
68	2710	末河 聡	地区青少年奉仕委員長
69	2710	檉迫 将人	地区RA委員長
70	2710	豊田 清一郎	地区青少年交換委員長
71	2710	城本 健司	クラブ会長
72	2710	古澤 彰一	クラブ会長
73	2710	西元 栄治	クラブ幹事
74	2710	水口 太郎	クラブロータリー財団(委)委員長
75	2710	角 秀司	クラブ会長エレクト
76	2710	土肥 慎二郎	ガバナーエレクト
77	2710	古本 泰司	地区ローターアクト委員
78	2710	大浦 里美	地区青少年奉仕委員
79	2710	織田 真澄	地区次年度会計長
80	2710	沈 勝義	クラブ青少年奉仕委員長
81	2710	小根森 直子	ガバナーノミニーデジグネート
82	2710	井内 康輝	広島会議実行委員長

参加者名簿

(地区別・順不同・敬称略)

No	地 区	氏 名	役 職 名
83	2710	平賀 哲朗	クラブ会長
84	2710	中本 俊之	クラブ副会長
85	2710	佐古 隆司	地区インターアクト委員
86	2710	山中 登	クラブ副幹事
87	2710	川村 勝彦	地区青少年奉仕委員
88	2710	上野 充憲	地区青少年交換委員
89	2710	森迫 泰弘	クラブ青少年委員長
90	2710	米澤 千晴	地区ローターアクト委員
91	2710	前川 拓也	地区会員増強委員
92	2710	水口 信	クラブ青少年委員
93	2710	前田 剛志	クラブ公共イメージ委員長
94	2710	北野 尚人	広島経済大学 メディアビジネス学部長/教授
95	2720	膳所 和彦	バストガバナー
96	2720	藤田 千克由	ガバナーエレクト
97	2720	前田 眞実	バストガバナー
98	2720	上野 公則	地区青少年奉仕副部門長
99	2720	芳崎 一郎	地区GND
100	2720	中川 貴夫	次年度RYLA実行委員
101	2720	久保田 哲	次年度RYLA実行委員
102	2720	植山 朋代	次年度RYLA実行委員
103	2720	作守 順子	RYLA全国研修会地区委員
104	2720	阿部 克哉	地区IA委員長
105	2720	林 秀一	地区RYLA委員長
106	2720	井立 伸一	地区RYLA委員
107	2730	岩澤 浩二	地区ロータリー学友委員長
108	2740	野口 清	バストガバナー /危機管理委員長
109	2740	麻生 康友	ガバナー補佐
110	2740	太田 陽子	地区RYLA委員長
111	2740	永石 辰巳	地区RYLA委員
112	2750	檜垣 慎司	地区米山記念奨学委員会・米山選考委員長
113	2750	齋藤 明子	地区青少年奉仕委員長
114	2760	神野 重行	RIJYEM副理事長
115	2760	鈴木 康仁	ガバナーエレクト
116	2760	加藤 健一	地区RYLA副委員長
117	2760	土面 尋志	地区RYLA委員
118	2780	久保田 英男	バストガバナー RIJYEM社員
119	2780	中込 仁志	ガバナーノミニー
120	2780	浅場 智彦	地区RYLA委員長
121	2790	時田 清次	ガバナーエレクト
122	2790	石田 亨	RYLA委員
123	2790	渡邊 圭介	RYLA委員

No	地 区	氏 名	役 職 名
124	2820	高田 稔美	青少年奉仕総括委員長
125	2830	成田 秀治	バストガバナー
126	2830	三浦 基	地区RYLA委員長
127	2840	竹中 隆	ガバナーエレクト
128	2580	鈴木 宏美	RAC/地区拡大増強委員他
129	2660	甲斐 翼	Team RYLA 代表
130	2660	菊池 雅人	Team RYLA 会計
131	2660	山崎 さやか	Team RYLA
132	2660	森口 涼香	Team RYLA
133	2680	中垣 迅人	RAC / 幹事
134	2710	福谷 総大	地区RA副委員長/地区RA代表/クラブ会長
135	2710	長尾 彰大	地区RA幹事/クラブ幹事
136	2710	浅谷 奈央	徳山RAC
137	2710	板井 貴大	地区RA会計/クラブ副会長
138	2710	高橋 尚希	クラブ会長
139	2710	長田 拓馬	地区RA副幹事
140	2710	藤岡 小雪	地区RA委員/地区RA代表エレクト
141	2710	寺西 紘祐	クラブ会長
142	2710	蒔田 龍之介	RYLA学友会
143	2710	澤田 一弥	地区RA国内研修実行委員長
144	2710	松永 大和	地区RA委員/地区RA直前代表/クラブ会長
145	2710	川久保 彩花	地区RA代表補佐
146	2710	原 郁哉	クラブ会長/地区RA代表ノミニー
147	2720	上野 聖顕	RAC/地区代表エレクト
148	2720	宮崎 靖也	RAC/地区代表ノミニー
149	2720	宮崎 朱里	RAC/クラブ幹事
150	2720	是永 ひより	RAC/クラブ幹事
151	2720	安部 宇美	RAC/クラブ会計
152	2730	水口 夏希	地区ロータリー学友会/会長
153	2730	宇都 沙織	地区ロータリー学友会/幹事
154	2750	古賀 麻寛	2025-26年度地区RYLA委員
155	2750	浅地 真梨唯	2025-26年度地区RYLA委員
156	2760	藤城 麗	RYLA学友会
157	2760	小島 夏帆	RYLA学友会
158	2780	谷後 優太	会長
159	RIJYEM	津留 起夫	RIJYEM事務統括
160	RIJYEM	斉藤 睦美	RIJYEM事務局
161	RIJYEM	武内 陽子	RIJYEM事務局
162	2710	岡崎 由美	地区事務局
163	2710	布施 美佐子	地区事務局



多くの皆様にご参加とご協力をいただき

第17回全国RYLA研究会広島会議を終えることができました。

心より感謝申し上げます。

国際ロータリー第2710地区

2024-25年度 ガバナー	上田 文雄
広島会議 実行委員長	井内 康輝
副委員長	土肥 慎二郎、平賀 哲朗
幹事	川村 勝彦
副幹事	末河 聡、大浦 里美
実行委員	檜迫 将人、織田 真澄、岸田 洋美、原 直樹、古本 泰司、 上野 充憲、佐古 隆司、森迫 泰弘、福谷 総大
地区事務局	布施 美佐子、岡崎 由美
R I J Y E M	津留 起夫、斉藤 睦美、武内 陽子

第17回全国RYLA研究会・広島会議 収支報告書

2025年6月10日作成

(収入の部)

(単位：円)

項 目	人数	金額	収入	備 考
登録料(ロータリアン)	126	12,000	1,512,000	
登録料(RAC・学友)	31	5,000	155,000	
懇親会(ロータリアン)	112	10,000	1,120,000	
懇親会(RAC・学友)	30	3,000	90,000	
二次会 ラウンジ	61	4,000	244,000	当日参加10名
二次会 ナイトクルーズ	52	2,500	130,000	
プレコン お好み焼きナイト	22	6,500	143,000	
プレコン 厳島神社参拝	11	7,000	77,000	
リーガロイヤルホテル広島(朝食付)	13	12,000	156,000	
リーガロイヤルホテル広島(朝食なし)	1	10,000	10,000	
安芸グランドホテル 5/9(金)	5	17,475	87,375	
5/9(金)夕食	1	6,655	6,655	
安芸グランドホテル 1人部屋	82	19,950	1,635,900	
安芸グランドホテル 2名以上	14	15,990	223,860	2710RAC 他8名分は実行委員会負担：127,920
登録料他収入合計			5,590,790	①
全国RYLA研究会 前期繰越金			492,584	②
金 利			1,953	
過入金・キャンセル分			178,890	
収 入 合 計			6,264,217	③

(支出の部)

	項 目	金 額	備 考
本 会 議 関 係	会議室	254,100	本会議、分科会
	謝金・交通費	33,000	北野氏
	来賓接待	16,920	
	会議用お茶	39,398	2日分
	弁当	187,600	5月10日(日)分134個
	お土産	284,384	160セット
	スタッフ用弁当	30,800	28名分
	看板他会場設営関係	108,350	ステージ看板、大型スクリーン
	パンフレット 報告書	330,000	200部、報告書:データ作成
	会議費	6,776	
	振込手数料他	19,580	返金分の振込手数料含む
	懇親会	1,458,288	142名参加
懇 親 会	アトラクション	172,000	20名弁当含む
	二次会	348,378	ラウンジ62名、クルーズ51名
	宿泊	2,081,710	5/9宿泊 5名、5/10宿泊104名
宿 泊	リーガロイヤルホテル広島宿泊費	166,000	5/9宿泊14名
	お好み焼きナイト	132,000	22名参加
	世界遺産厳島神社参拝	103,260	11名参加
経 費 合 計		5,772,544	④
返金(過入金・キャンセル)		178,890	
支 出 合 計		5,951,434	⑤

収 入 合 計	6,264,217	③
支 出 合 計	5,951,434	⑤
差 引 ③-⑤	312,783	⑥ 次期繰越金

2025年6月12日

報告者

川村 勝彦

登録料など実収入に対する収支計算

今年度収入 ①+金利	5,592,743	
経 費 合 計 ④	5,772,544	
差 引(不足分)	-179,801	前期繰越金492,584円より補填

不足分内訳

RAC8名宿泊費(@15,990X8名)	127,920	2710地区RAC8名の宿泊費を実行委員会負担とした
その他不足金	51,881	
合 計	179,801	

※RAC8名はスタッフとして活動してもらう為、宿泊費を全体の会費で支払うことを実行委員会で決定した

次期繰越金の扱いについて→RIJYEMに返金

次期繰越金	312,783	
振込手数料	495	
差 引	312,288	RIJYEM入金額

2025年6月12日

報告者

川村 勝彦

第 17 回全国 RYLA 研究会広島会議
実行委員会委員長 井内康輝 殿

監査報告書の提出について

私たちは、全国 RYLA 連絡会運営委員会の申し合わせにより、下記のとおり監査報告書を提出致します。

以上

監 査 報 告 書

私たちは、2025 年 5 月 10 日および 11 日に開催された「第 17 回全国 RYLA 研究会広島会議」につきまして、提出された収支報告書、証憑書類、および繰越金処理について監査を実施いたしました。
その結果、収支計算書ならびに関係書類は、関係規程に基づき適正かつ正確に処理されていることを確認いたしました。

以上

2025年6月26日

全国 RYLA 連絡会運営委員会監査役
第 2530 地区 PDG 芳賀 裕
第 2720 地区 PDG 前田眞実
RIJYEM 推薦役員 黒田建一

